

浄願寺だより

R5冬No.18

遠方にお住まいのご門徒さんから、定期的にお寺の近況を聞かせてほしい、どのご要望があり、このたびは浄願寺だよりとしてお寺をとりまく身近な出来事を取りまわしてお知らせしようと思えます。夏冬二回の発行を予定しています。

令和五年一月二十八日発行

編集責任者

浄願寺住職 関 秀法

よかった…、
よかった…

「臨終の善悪をば申さず」

阿弥陀仏は、私たちがどんな死んでいき方をするのか、そんなことはまったく構いなく、私たちを救って行かれます、という意味の親鸞聖人のお言葉です。



あるお寺のご住職からお聞きした話です。

Sさんというお方が奥様に付き添われお寺にお越しになり、短いお参りのあとご住職とお話になりました。Sさんは、六十代後半、数年前からガンを患い治療を続けて来られましたが、最近急激に体力が衰え、お医者様から余命は数か月と教えていただいたのだ、ということでした。

「自分の体のことは、自分で対処するしかありませんが、葬式の出し方やお墓の

ことなど、残ったものが混乱しないように、いま決められることは決めておきたいのです。」

Sさんは大変聡明なお方で、自分の亡くなった後のことをメモをとりながらご相談になり、決まったことを横におられる奥様に一つ一つ、「わかったか」と確認を取っておられました。

四十九日や一周忌、残された家族の入るお墓のことまで事細かに決めてになり、ようやくSさんはメモ帳を閉じ、老眼鏡を外してほっとしたようなお顔で、住職に微笑まれました。

「これですっきりしました。いさぎよく、きれいさっぱりと死んで行けます。住職、あとのことはよろしくお願いします。」

Sさんは抗がん治療で毛の薄くなった頭をなでながらそうおっしゃいました。住職によると、その時のSさんの笑顔は、病気による悲壮感をまったく感じさせない、さわやかな笑顔だったそうです。

しかし、そのあまりにさわやかなSさんの笑顔を見たとき、なぜかご住職は「このままこの人を行かせてはいけません」と思ったのだそうです。それは言葉にはできませんが、これまで多くの人の生死に触れてきたご住職の直観のようなものでした。

「Sさん…」とご住職は座を止され、「最後に一つだけ親鸞聖人のお言葉をお伝えしてもよろしいですか。」とおっしゃいますと、Sさんは「はい」とあわててもう一度メモ帳を開かれました。

・・・『臨終の善悪をば申さず』。
御開山（親鸞）聖人の言葉です。

阿弥陀様は、私たちがどんな死んでいき方をするかというようなことは全くお構いにならず、私たちを救ってゆかれます。「いさぎよく、きれいに死なねばならぬ」

などとは、どこにもおっしゃっておられません。Sさんがどんな往生の時を迎えられるのか、誰にも分かりませんが、そのことだけは知っておいていただきたいのです・・・。

Sさんはその言葉を聞き、メモ帳に書き留めようとなさいましたが、途中でその手が止まり、ペン先がブルブルと震えだしました。

見ると、Sさんは、顔をくしゃくしゃにして泣いておられました。

しばらくの間、Sさんの静かな嗚咽だけが堂内に響いておりました。奥様に背中をさすられて、ようやく息を整えられたSさんは、

「来てよかった、来てよかった…」

と仰りながら、もう一度、ご本尊の前に座りなおされ、奥様と一緒に合掌し深々と頭を垂られたのでした。

そして、ご住職に別れの言葉を言い、本堂を出て行かれる時まで、「よかった…、よかった…」とつぶやいておられたそうです。



わが身一つ、整えようにも整えきれぬ私であります。だからこそ、いまこのみ教えに出会わせていただいております。

令和五年一月 住職

門徒の広場

令和四年度前期・後期

門徒の広場はWEB版では
ごらんいただけません。

お寺の掲示板

寺をな人は
忘れっぽい
よいことも
わるいことも



改修していただいた法中玄関

編集後記

今回で第十八号になります「浄願寺だより」。令和四年夏号は発行出来ず申し訳ありませんでした。昨年夏、「よし、原稿を書くぞ」と。パソコンに向かった途端、寒気がし、高熱が出て、コロナ感染が発覚しました。幸い症状は熱だけで、十日間の隔離期間中に、書こうと思えば書けたのですが、「これは天が休めと言っているのだ」と勝手に解釈し、ゆっくりと療養させていただきました。おかげさまで、いまはすっかり元気です！

浄土真宗本願寺派
笹尾山浄願寺

〒620-0925

福知山市上篠尾725

電話0773-22-5280

email jyouganjiweb@gmail.com

http://www.jyouganji.com

住職 関 秀法

変わりゆく形、変わらない心。



ふるさとの杜墓苑

永代供養墓

furusatonomoriboen.com